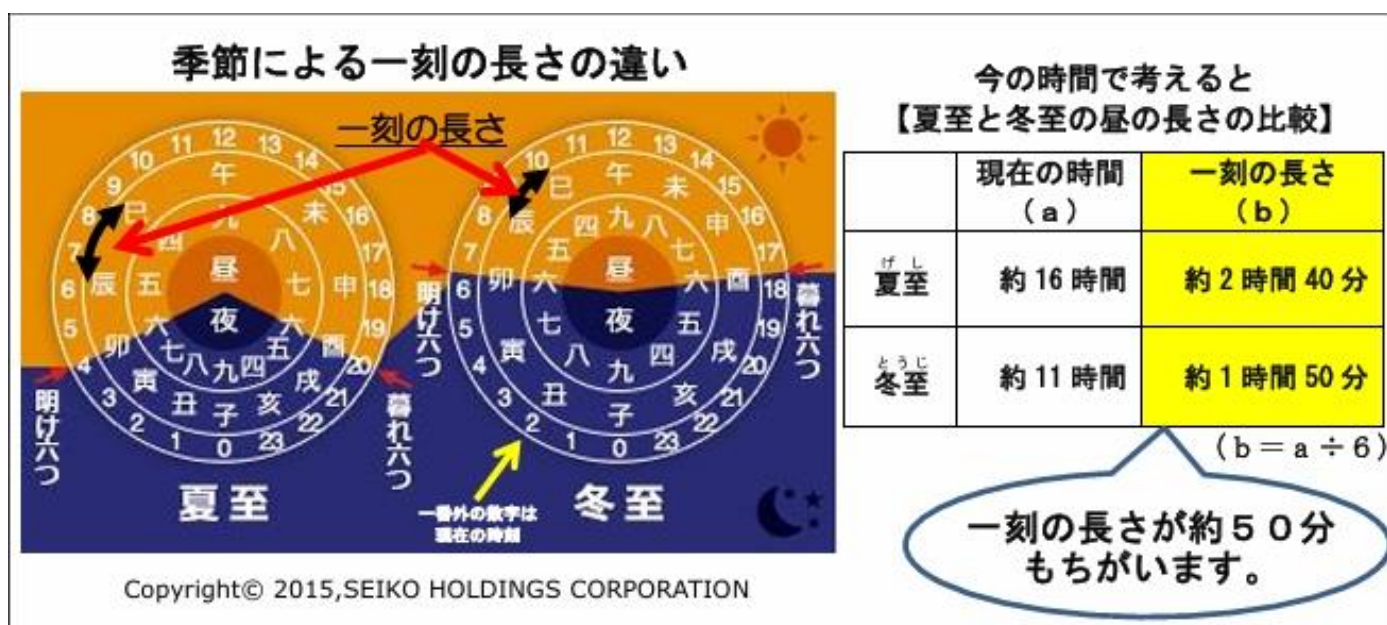


江戸クイズ 其三 [解答と解説]

問① ^む六^{どき}つ時

江戸時代、時刻を知らせる「時の鐘」は、打つ前に「捨て鐘」を3回打ちます。問題は9回打ってますから(9-3=6)で六時です。しかし、江戸時代は現在の六時と少し事情が違います。当時は日の出と日没を基準とする不定時法が使われていました。日の出の30分前を明け六つ、日没30分後を暮れ六つとし、その間を昼夜それぞれ6等分して約2時間分を一刻としていました。十二支と漢数字を組み合わせることで、20分単位で表すこともできます。また、夏と冬では当然日の出や日没の時刻が違いますから、一刻の時間も変化しました。



「東京都教育委員会 HP」 https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/documents/d/kyoiku/dentou_suishinsiryo012

鐘は、明け六つ・昼九つ(正午)・暮れ六つの一日3回撞いていました。時代により鐘の設置場所と個数は変化しますが、①本石町 ②上の寛永寺 ③市ヶ谷ハ幡 ④赤坂田町成満寺 ⑤芝増上寺 ⑥目白不動尊 ⑦浅草寺 ⑧本所横堀 ⑨四ッ谷天竜寺 の9カ所で、前の寺の鐘の音を聞いた後順序良く鳴らしたそうです。

問② 駕籠(かご)の中

読んで字のごとく、まさにお駕籠の中にいました。
競馬場にも「竜」「ドラゴン」という名を含んだ
競走馬がいそうですね。

